

1. 評価結果概要表

作成日平成20年12月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401335
法人名	有限会社 藤田企画
事業所名	グループホーム 佃の里
所在地	〒859-1115 長崎県雲仙市吾妻町永中名47-1 (電話)0957-20-0062

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7417島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(H20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤	0 人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	実費・水道光熱費3,000円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	2名		
年齢	平均 88歳	最低	81歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永吉医院・愛野記念病院・土井歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

わかりやすい案内の看板に従って、国道に沿った静かな通りに入るとすぐ小学校があり、その並びに当ホームがある。敷地内にはデイサービス施設も併設されており、近くにある母体施設の整骨院とあわせて、地域の馴染みの方の出入りも多い環境である。すぐ近くの小学校とは福祉体験学習の受け入れや、最近は週に1度ボランティアクラブの子供達が訪れ、紙芝居や折り紙、肩揉みと和やかな交流を入居者は楽しんでおられる。ホーム内は共用空間、居室とも広くゆとりある空間が広がり、ホーム内外にある鉢花や花壇が清々しさを与えている。前回評価からのこの1年間は、入居者の入退所が多く、その中で看取りの事例も経験した目まぐるしくも、学び多い日々であった。ことに看取りに関しては管理者の言葉の中に「グループホームとしての支援のし甲斐を感じた」とあり、支援の指針として掲げられている「慈しみの心を持って接します」の実践がなされ、今後にも経験が活かされていくことが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートが作成されているが、ホームのスタッフ間で支援における問題提起をして取り組まれたものであり、前回評価で挙げられた改善項目に沿った計画とは異なっていた。しかし、運営推進会議、地域とのつきあいに限っては出来る範囲で改善に前向きに取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は入居者の入れ替わりや職員の異動といった多忙な状況が重なってしまい、職員全員での自己評価への取り組みはなされなかった。管理者は自己評価、改善計画シートの意義と活用を再認識し、今年度の反省をもって次回は取り組むことを意欲を持って表明されており、今後に期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	概ね2ヶ月に1回、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、計画作成担当者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。民生委員の方からは、ホーム内の花壇作りや、入居者の健康のために県が推奨している体操の実施など、様々な提案と協力をいただいている。今年度は会議報告書を参加されていない家族へ送付し、情報開示に努めた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族交流会などの機会はもちろんのこと日常の面会訪問の折にも、家族となるべく話しやすい雰囲気作り心がけ、意見要望をいただけるように努めている。意見箱も設置し、常に意見傾聴の姿勢は表している。今後は、いただいた意見、要望、苦情の内容と対応、その結果までのプロセスがわかる記録に仕組み、より誠意を持ってサービスの質の向上に反映できるよう期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	すぐ近くの小学校の福祉体験学習の受け入れは従来より行っていたが、加えて週に1度、ボランティアクラブの児童達が訪れている。紙芝居や歌、折り紙など和やかな交流がなされ入居者は喜ばれており、12月にはホームのクリスマス会に招待したいと検討している。近隣住民とは入居者、職員とも日頃挨拶を欠かさず、顔馴染みの関係ができており、デイサービスを利用される地域の方との交流も継続している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「家庭的な安らぎのある生活を応援します」としており、スタッフのみならず地域の方から様々な形で支援をいただきながら、入居者にとって第二の我が家として暮らしただけのホームを日々目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はもちろんのこと、介護目標或いは日々の心得として、事務所や洗面所など目に付くところに「慣れは禁物、今日が初日」「1ケア1手洗い」などの文言が貼ってある。憩いと安らぎのある生活を支えるべく、事故防止、衛生管理への気配りを怠りなく支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぐ近くの小学校の福祉体験学習の受け入れは従来より行っていたが、現在、週に1回ボランティア活動として小学生が紙芝居の披露に訪ねてきてくれており、入居者も喜ばれている。12月にはホームのクリスマス会に招待する交流を検討している。近隣住民とは日頃挨拶を欠かさず、顔馴染みの関係ができており、デイサービスを利用する地域の方との交流も継続している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の自己評価は職員が気づきをあげて、まとめていく形で全員で取り組むことができたが、今年度は入居者の入退所、職員の異動が大きくスタッフが多忙となったため、管理者一人が記入する自己評価となった。管理者はヒアリングにおいて自己評価の意義と活用を再確認し、次年度は意欲的に取り組む姿勢を示された。		今年度の多忙は理解できるが、自己評価の意義を理解し、全職員で取り組み、日々のケアの振り返りに活用し、実施項目を詳細に記述される事が望まれる。また、改善項目に関する改善計画シートを作成し、計画的に質の向上に取り組まれる事を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、計画作成担当者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。民生委員の方からは、ホーム内の花壇作り、入居者の健康の為に県が推奨している体操の実施など様々な提案と協力をいただいている。今年度は会議報告書を家族へ送付し、情報開示に努めた。		

グループホーム 佃の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	権利擁護に関する制度を利用されている入居者がおられるため、社会福祉協議会の方が来られるので、報告、相談など行い、行政との関わりがある。また、民生委員を介して、教育委員会とも関係が深まっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「佃の里通信」において毎月の活動、行事の様子をお伝えしている。入居者の近況報告は家族の面会時に口頭で伝えており、遠方に家族がおられたり面会が少ない場合、緊急を要する場合など状況に応じて電話、手紙で伝えている。請求書を送る際に、金銭出納帳と領収書のコピーを共に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会などの機会はもちろんのこと日常での訪問面会の折には、家族となるべく話しやすい雰囲気の中で意見などを伺うことが出来るように配慮している。意見箱も設置し、常に家族に対して意見傾聴の姿勢を持って接している。家族からの苦情などへの対応に関して今後検討したいとしている。		家族からの意見、苦情などを頂いた場合は、その内容と対応のプロセスが後で確認できるように、また職員全員の情報の共有化を図り支援に活かしていく為に記録していくことが望ましい。よりよい解決方法を見出し記録を取りながら、誤解を招くことがないよう工夫していける取り組みに期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は離職者がでて、4月から6月まで新規採用者が決まるまでの間は厳しい勤務状況であった。新しい職員も入居者や家族とのコミュニケーションには最初は苦慮したが、入居者への影響に最大限配慮し、職員間の話し合いにおいて情報の共有を図りながら、軌道に乗りつつある。更に計画作成担当者も退職、交代が決まっているので、2ヶ月の引継ぎ期間を設けて支援に支障がないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は年2回は、必ずいずれかの研修会などに参加することと義務付けており、それ以外でも行きたい研修があれば個々で選んで参加していくように勧めている。内部研修は今年度のホーム内の状況において難しく機会がなかったため、次年度は前向きに検討していくこととしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	かねてより希望していた町内事業所との交流が民生委員の協力のもと今春実現した。しかし、まだ1回の集まりでその後の進展は今のところない。管理者は、運営者や管理者といった役職での交流もだが職員間の交流も大切と考え、職員のストレス軽減、ケアの向上といった目的においての活動の中で、職員の声を聞き離職を防ぐ取り組みに活かしたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>提携医療機関のソーシャルワーカーを通じての場合は、事前の情報を吟味させていただき入居していただいている。法人内デイサービスから移行のときもある。いずれにせよ本人、家族に見学していただき、管理者が本人のもとへ訪問するなど納得しての入居への支援を行っている。新規入居の際は、職員は小さなことでも申し送り時などに話し合い、情報の共有に努めて支援にあたっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>年長者が持っておられる生活、人生においての様々な知恵を暮らしの中で教えていただいたり、気づかされたりする場面がある。この1年は看取りの事例もあり、時に喜怒哀楽の感情を共有し、日々の変化の中で暮らしを支え合っていた部分もあった。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者基本情報のほかに、入居者の状態に加え本人、家族の要望、意向、気づきを全て書いている申し送りノートが、情報把握、職員間の共有のために大切なものとなっている。医療連携情報提供表には、入居者の全ての情報がわかりやすく記載し、まとめられている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議において職員間の意見交換、記録に基づき介護計画作成にあっている。しかし、介護計画書に本人、家族の意向、要望の欄がなく、その反映、課題抽出が不足している。また、介護計画書の同意欄に家族の確認した日付、署名、捺印がない。</p>		<p>介護計画の作成において入居者、家族の意向は不可欠である。本人、家族からの意向に関する聞き取りを実施し、聞き取りが困難な場合も日常の気づきの反映に取り組むことが望まれる。また介護計画書の重要性を再認識され計画作成後は、説明及び同意欄への日付、署名、捺印を(遠方の場合2部作成し、送付して同様に頂き再送付いただく)確実にいただく取り組みに期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的(3ヶ月、6ヶ月)或いは状態変化が見られた時は随時の見直しをしている。申し送りノートを詳細に記述する事で入居者の心身の状況理解に努め、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、達成度をはかりながら、介護計画の遂行状況を把握している。</p>		

グループホーム 佃の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援を行っている。隣接する整骨院の柔道整復師によるリハビリマッサージのサービスが行われており、入居者に好評である。家族のホームへの宿泊も柔軟に対応しており、家族が宿泊された際は入居者と一緒に入浴を愉しんでいただくなどの家庭的で温かな支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が提携医が主治医となっており、通院支援も行っている。かかりつけ医の循環器科に通院される入居者は遠方から来られる家族が同行されており協力しての受診で助かっている。受診結果はその都度家族へ電話連絡を行い、連絡の記録は介護記録に残している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年度はターミナルケアを経験した。家族、本人の『最後までホームで』という意向に沿って、必要とされる医療的ケアも出来る範囲で全職員で学びながら努めた。医療機関、家族と連携をとり、話し合いながら取り組んだ終末期の支援は、職員、ホームにとって今後活かす大きな学びであった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみを込めた声かけの中にも、入居者の自尊心を傷つけることがないように、あくまで目上の方であることを忘れず状況判断しての言葉遣いに配慮している。時に言葉による制止になりかける場面があると、管理者は職員に対して入居者と距離を置く、自分中心になっていないか省みるというアドバイスを、何気なく伝えるようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床、就寝時間は入居者全員がほぼ同じペースなので時間は大体固定しているが、その他の時間は居間なり居室なりで自由に、我が家のように過ごしていただくこととしている。		

グループホーム 佃の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日買い物に出かけて、旬の新鮮な素材を求めて入居者の嗜好に配慮しながら献立を立てている。入居者は出来る方はエプロンをかけて米をといだり、食材の下拵えをしたりと家事に参加して頂いている。職員も共に食卓につき、会話の多い和やかな食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回であり、入居者の希望や身体状況に沿って柔軟な支援を行っている。仲の良い入居者同士が二人で入られたり、時に入浴剤を使って気分をリフレッシュして頂くなど入浴を楽しむ支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、買い物、折り紙、塗り絵、それにおしゃべりと、入居者各自の生活歴と能力に沿って楽しみごとへの支援がなされている。運営推進会議で提案いただいた「がんばらんば体操」をレクリエーションとして取り入れ楽しんで体を動かしてもらうよう準備中である。洗濯室で洗濯板を使って自身の衣類を洗われたり、箒で居室の掃き掃除をされる方もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣への散歩には希望に応じており、外の花壇への水遣りもお願いして気分転換していただいている。買い物も、それぞれ嗜好品や衣類などを求めに出かける支援も行っている。全員での少し遠出のドライブ(堤防道路へのドライブなど)も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠はされていない。出かけられる場合は、さりげない職員の見守りはもちろんのこと、隣接のデイケア施設職員や近隣の方の見守りや声かけの支援をいただいている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域消防団立会いのもと火災避難訓練を行っている。日中は隣接のデイケア施設との連携があるが、夜間は近隣は高齢者住宅がほとんどでホームに程近いところに住居がある職員との連携を図っている。災害に備えての備蓄などの用意はなされており、天災(地震など)への対応策も特にとられていない。		地震を始めとする自然災害に対する避難等の対応マニュアル作り、想定訓練に取り組まれることが望まれる。また、災害発生時、避難後の復興対策を考慮し、災害時持ち出し品のチェック、最低限の飲料水、生活用水、食料、備品の準備に取り組まれることに期待したい。

グループホーム 佃の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配慮している点として、スムーズな排泄がなされるよう食物繊維摂取に心がけ、野菜を多く摂れる献立を考えている。基本的に毎日買い物で旬の物を求めながらその日の献立を立てているが、管理者が食生活改善の勉強をした経験から内容についてアドバイスを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井も高く広々とした居間と食堂は明るく寛げる空間である。掘りごたつがある畳の間もあり、カウンターキッチンや事務室からの見守りも自然にできる造りである。浴室、トイレ、洗濯室も入居者が利用しやすいスペースが十分にとってある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレが備わっているため、夜間の利用において安心が得られている。車椅子対応の広い洗面台とクローゼットも備えた機能的な室内であるが、趣味のものや調度品などが持ち込まれ、その人らしい部屋作りへの支援に努めている。		